

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	河南町立河南東中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	23
生徒数	85	98	98	3	284	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

確かな学力を身に付けようとする生徒の育成  
～個に応じた学習指導の工夫を通して～

## 2. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

- ・全学年・全教科  
全教科、領域等で基礎基本の定着を目指し学力向上に取り組む。
- ・1、2年・数学  
教師による生徒への支援の機会を拡大するため、少人数にして指導を行うことで個に応じた指導を行い、学力の向上を図る。
- ・3年・理科  
最終学年で、複数の教員による指導をすることで、個に応じたきめ細かな指導を行う。

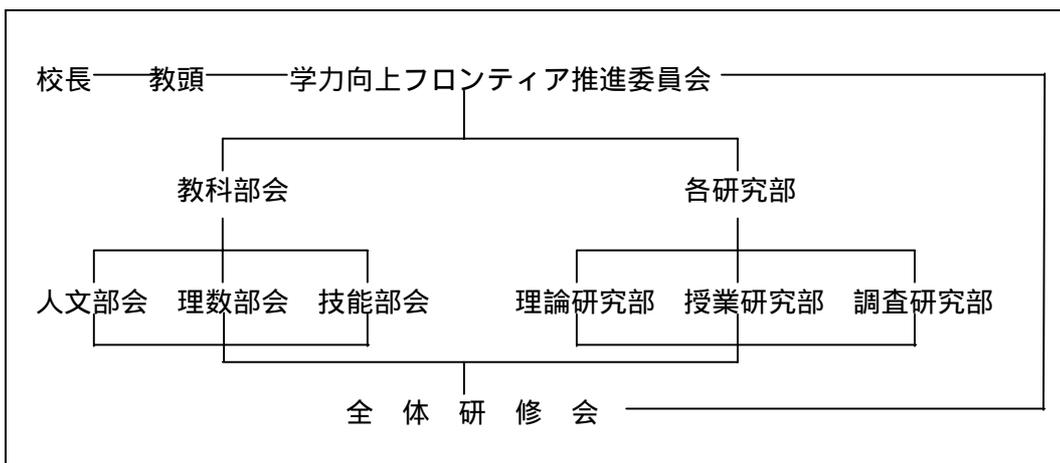
## (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力を身に付けようとする生徒の育成」 ～個に応じた学習指導の工夫を通して～ 課題把握の段階で、課題意識を高めるような工夫を行えば、問題解決に主体的に取り組み、基礎的基本的な内容が確実に定着するだろう。 研究の内容与方法</p>
	<p>《共通理解と指導計画の作成》 （1）生徒の実態調査 （2）標準学力検査 《授業実践》 （1）確かな学力向上に向けての学校づくりの方向性を共通理解 わかる授業作り 基礎・基本の確かな定着 （2）個に応じた指導の工夫 指導過程の工夫 指導形態の工夫 問題解決的な学習 課題把握・提示の工夫 教材・教具の工夫 表現の場を工夫した授業づくり</p>

平成 15 年度	<p>(3) 指導に生かす評価の工夫 評価規準表の活用 日常化できる評価の工夫</p> <p>(4) 学習環境の整備 朝読書タイム 学びのルール作り</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力を身に付けようとする生徒の育成」 ～個に応じた学習指導の工夫を通して～ 課題把握の段階で、課題意識を高めるような工夫を行えば、問題解決に主体的に取り組み、基礎的基本的な内容が確実に定着するだろう。 《実践と改善》</p> <p>(1) 確かな学力向上に向けての学校づくりの実践 (2) 個に応じた指導の工夫 (3) 指導に生かす評価の工夫 (4) 教材・教具の開発 (5) 学習環境の整備</p>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

- ・ 課題把握の段階を工夫することで、生徒が自分の課題をしっかりと捉え、学習の見通しを持ち、意欲的に学習に取り組むようになった。
- ・ 毎時間の評価規準を絞り込むことで、ねらいがはっきりし、個々の生徒の実態が把握でき支援のあり方が明確になった。
- ・ 少人数にして指導を行うことで、支援の機会が拡大し、個に応じた指導を行うことができた。

## 2. 今後の課題

- ・ 本校の研究の中心は、課題把握の段階を工夫することによって、生徒の興味・関心を高め、生徒が学ぼうとする意欲を起こさせることにある。日常の毎時間の授業の中で外的動機付けをしっかりと行い、生徒自身が進んで学ぼうとする内的動機付けに結びつくよう今後も、より一層工夫改善を図っていききたい。
- ・ 生徒が学習に見通しを持って取り組み、振り返りをするためには学習カード等の工夫や資料の蓄積が必要である。各教科で自己評価の工夫を行っていく必要がある。
- ・ 家庭学習の習慣や進路に結びつけた学力向上の取り組みを進めるため、特別活動との関わりについて見直し、連携を図っていききたい。

### 学力把握のための学校としての取組

学力検査の実施 5月  
学習に関する意識調査 6月、2月

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究紀要を作成し研究内容の普及に努める。  
Webページを作成し研究内容の普及に努める。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	